



第44回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 全国大会東京大会を終えて

東京大会実行委員長
江東区立南陽小学校
校長 伊藤 秀一

第44回全難言東京大会には、全国から900名近い先生方が集まり、会場となったオリンピックセンターは、猛暑を上回るほどの熱気でいっぱいになった3日間でした。本大会を大成功に終えることができたのは、参加された先生方の難言教育をよりよいものにしたという思いと、大会を支えた数多くの方々の絶対に成功させたいという強い熱意のおかげです。この場を借りて感謝を申し上げます。

本大会は、「輪（つながる）」をテーマとして設定し、1年半以上をかけて入念に準備を進めてきました。それは、全国の先生方が集まることが目的ではなく、一緒に議論し、深め合い、参加してよかったと思える大会にしたかったからです。ですから、話し合いのための共通の土俵を用意しました。それが、縦（子供の成長を支える）のつながりと、横（子供の今を支える）のつながりであり、どんな実践であっても基盤となると考えたからです。発表者やコーディネーターの方々には、この趣旨に沿って実践をまとめ、話し合いの方向付けをしていただきました。また、当日の仕掛けも用意しました。それが、「つながるシート」です。参加型の分科会やパネルディスカッションとするために、会場に集まった先生方とみんなで実践を共有し、多くの意見が取り上げられるよう工夫しました。このような主催者側の意図を皆さんが汲み取り、つながり合っていたいただいたことが、充実した会となった大きな要因であると考えています。

また、講演をしていただいた早瀬憲太郎先生からは、「もっと知りたい」という興味・関心や意欲をもつことの大切さをご自身の体験を交えてお話をいただきました。私たち教師は子供たちにいかに意欲的な学びの場を提供できるのか。そして、私たち自身も成長したいという意欲を常にもち続けることができるのか。この大きな課題に対して会場全体が一体となり前向きに考えを共有し合う時間となりました。

本大会でテーマとした「つながり」は障害のあるなしにかかわらず、子供たちへの教育の充実に欠かせないものであると考えています。副主題に掲げた子供たちの笑顔や未来につながる教育の実現に向けて、これからも意欲と決意をもって挑戦を続けていきたいと思っています。本大会が皆さんにとって、そのための契機となる大会とすることができればありがたいです。

最後になりましたが、文部科学省の庄司美千代先生を始め、東京都教育委員会、都内各教育委員会、関係各位、関係諸団体の皆様に感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。